

令和7年度 授業創造プラン

1年

教科	児童の実態（Gテスト／学力調査を含む）	具体的な取組
国語科	- 平仮名の書く力に関する個人差が大きく、それに伴って長音、拗音、促音、撥音を使った言葉の表記は習熟中である。 - 伝えたいことを文に表現して、自力で書くことはまだ難しい児童が多い。 - 読むことについても個人差はある。自力で読めない児童は、聞いて覚えることができている。 - 大事なことを落とさずに聞くことが苦手な児童が多い。	- 平仮名の復習テストを実施して、個々の定着度を把握する。また、宿題を活用して引き続き反復練習を行う。 - 日記や作文など文章を書く機会を増やし、表現することに慣れさせていく。 - ミライシードを活用し、平仮名、片仮名、漢字の読み書きの定着を図る。 「くわしくきこう」の単元では、話を聞いて、知りたいことや感想を言わせることで、大事なことを落とさず聞けるようにする。
算数科	10までの数の構成・分解、たし算・ひき算の意味や計算の仕方はおおむね理解できているが、個人差が大きい。 - 具体物を操作したり絵を見たりすると答えは分かるが、数字のみを使って立式できない児童がいる。 - 生活の中の語彙と算数用語が結び付かず、立式することが難しい児童が見られる。（引く→とるなど）	- 宿題を活用して、既習事項の復習を行う。 - 自力で演算決定できるように、「たしざん」「ひきざん」の単元では、大事な言葉や数字に着目させる。また、クロームブックのミライシード機能や、デジタル教材を使って既習の計算についての理解を深める。 - ペア学習を多く取り入れて自分の考えを表現する場を設定し、思考力・表現力を向上させる。